

# 不正の温床か、お米の表示

クズ米・汚染米・輸入米：

暮らしの

安全 安心

情報

お米の表示は「不正の温床」とし、その改善を求める意見が消費者団体間で高まっている。今年十月から「コメトレーサビリティ法」が施行されるが、現行のコメ表示のままではJAS法の表示は役に立たないばかりか、かえって不適正表示

を助長させ、消費者は混乱するとし、抜本的改善を求める意見が多い。四月八日、約二十団体の消費者・市民・農業生産者団体などで構成する「米の検査規格の見直しを求める会」は衆議院議員会館で集会を開き、すべての精米に産地・産年・品種・割合を表示すること、クズ米の主食への混入禁止、カメムシ防除のために農薬使用を助長させる農産物検査を見直し、同検査をJAS表示の根拠に用いることをやめること、などを求めた。集会ではブレンド米の表示不正の横行に警戒する意見が相次いだ。

# ブレンド米はブラックボックス



不正の温床「コメ表示」。消費者の目線は活かされるか（4月8日）

のが一般だが、超古米やクズ米の混入や、産地の割合がどれくらいかも表示からは分からない。海外から輸入される「ミニマムアークセス」米や汚染米が入っても複数原料米の表示では消費者は知る事ができない。少なくとも「複数原料米・国内産・十割」などの表示は撤廃する必要があるとした。その上で、

## 役立たない表示制度 市民・消費者団体が改善運動

### JAS法・検査法「抜本見直しを」

◎信用できない お米の表示

「米の検査規格の見直しを求める会」は、反農薬東京グループや食政策センター、ヒュン21をはじめ、日本消費者連盟、主婦連合会、大瀧村農業委員会有志など、市民・消費者・農業生産者約二十団体で構成。四月八日、衆議院議員会館で農水省や消費者庁の担当官を招き、「JAS精米表示の問題点を考える集会」を開いた。

「あいさつに立った反農薬東京グループの辻万千子さんは、

「取組のきっかけは〇七年以降のカメムシ斑点米問題だが、米の検査制度が過剰な農薬散布を生産者に強

いており、消費者にもまったく利益はなく却って悪影響を与えている、という態度では把握できない。品質は米のトレーサビリティ制度で把握できない。品質の劣るクズ米が主食米に混ざって販売されている。減反政策が継続される一方、農

家にとっては米価格の下落となり消費者には意味がないこと、しかもJAS法に基く「産地・産年・品種」表示が農産物検査法を前提にしたものなのに、その検査自体が生産者の申告で実施され根拠が薄いこと、検査を受けない未検査米が「複数原料米」として流通されている実態は、どのよう米、産地、割合を表示する

「米は単一米の流通を基本とし、消費者の手元にわたるまで一切のブレンドを禁ずるべきではないか」と問題提起した。主婦連合会の山根香織会長も「主食であるお米の表示は消費者に不透明。誰のための表示か、それを前提に改善を求めていく」と強調した。

秋田県大瀧村の生産者・今野茂樹さん（大瀧村農業委員会）は、「クズ米（ふるい下米）は米のトレーサビリティ制

益のためだけにクズ米が正当化されるのはおかしい」今野さんは、農産物検査法に基づく検査によって等級分けされた単一原料米が

田節子さんは「コメの表示は今やブラックボックス」